

# ポレーシェ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1991.7.1 No.8

## ネチポレンコ編集長と ライサさん来日決定



ヴァレリー・ネチポレンコ氏 アルチェフ・ライサ・ヴラジミールボナさん

前回もご紹介しました通り、チェルノブイリ救援・中部が現地の救援窓口としているジトミールスキーヴィスニーク新聞社のネチポレンコ編集長と小児科医師のライサさんを今年の夏に日本に招待することになりました。このためすでに各地では講演会の準備に入っています。現地のジャーナリストから直接被害の様子が伝えられるのは日本では今回が初めてです。

チェルノブイリ救援・中部では、お二人の滞在期間中を「医療救援キャンペーン」期間として医療機器（中古可）や医薬品の寄付、その他の医療協力やカンパを訴えることにしています。講演会の入場券は、一般プレイガイドでは扱っていません。各地の窓口や事務局まで郵便または電話でご注文ください。また各地ではこのイベントの実施や入場券の販売に協力してくださる方を募集しています。できる限り講演会入場料収入だけでこの企画運営をまかないたいと思っています。ご協力ください。

お二人のプロフィールと講演会予定、各地の訪問地および問い合わせ先は次のページようになっています。

タイトル：「現地ジャーナリストが語る

## 5年目のチェルノブイリ」

講演者：

ヴァレリー・ネチポレンコ氏：

ジトミールスキヴィスニーク新聞社編集長、政治学者、ソ連ウクライナ共和国で最も早く市民レベルでの救援活動を始めた。36才。

アルチェフ・ライサ・ヴラジミールオブナ

小児科女性医師、ウクライナ共和国ジトミール州立小児病院勤務。44才。

主催：チェルノブイリ救援・中部

各地後援：中日新聞、大垣市教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、  
広島テレビ

講演会日程と問い合わせ先：

- 7/28 (日) 名古屋市 名古屋市女性会館 午後1時30分より  
前売り大人1000円 (当日1200円)  
中高生半額 長谷川 tel.052-773-0271
- 〃 29 (月) 豊橋市 豊橋勤労福祉会館 午後6時30分より  
入場料 同上 かきの木屋 tel.0532-53-4138
- 〃 31 (水) 伊那 上伊那郡南箕輪村大芝高原キャンプ場 (雨天時屋内)  
午後6時より 入場料1000円 (食事付き、飲物持参のこと)  
\*ネチポレンコ氏のみ 小野寺 tel.0265-78-9466
- 〃 31 (水) 長野市 勤労者福祉センター 午後6時30分より  
入場料 500円 坂田 tel.0262-45-0239  
\*ライサさんのみ 翌日長野県原水禁集会に参加
- 8/ 1 (木) 岐阜市 コンセプトビル 午後6時より 入場料未定  
\*ネチポレンコ氏のみ 寺町 tel.0581-22-2281
- 〃 2 (金) 大垣市 大垣市文化会館 午後10時より 入場料500円  
川瀬 tel.0584-91-2253
- 〃 3 (土) 金沢市 石川県教育会館 午後6時より 入場料500円  
高田 tel.0762-43-9745
- 〃 4 (日) 京都 交流会 5 (月) ~ 8 (木) 広島平和集会参加 病院など訪問  
\*協力：ジュノーの会
- 〃 9 (金) 宮崎市 講演会 主催：チェルノブイリ救援・宮崎
- 〃 10 (土) ~ 13 (火) 名古屋 今後についての打ち合わせ  
帰国準備ののち伊那の人たちと同行帰国。

「諸君。風は追い風、順風だ。地球温暖化、酸性雨、砂漠化の進行、その他もろもろの地球規模の環境問題は、クリーンなエネルギー源としての原子力の見直しを各国に迫っている。化石燃料に代わり得るのは原子力しかない。世論は移り気だ。チェルノブイリ事故の記憶は、今や忘却の彼方に消えつつある。今こそ原子力発電推進の時である。諸君は自信と希望を持って業務に励んでもらいたい。」

読者は、この発言を誰のものとお思いだろうか。科学技術庁でも東京電力社長のものでもない。ウィーンにあるIAEA（国際原子力機関）のブリックス事務局長（元スウェーデン外相）が、1988年末、三選を前に事務局幹部を集めて飛ばした檄なのである。当時現職の広報部長だった筆者は、IAEAが完全に原発推進機関と化したことを改めて確認した。

IAEAの「チェルノブイリ原発事故による事故の影響はない」という調査結果が5月19日に新聞に発表され、おどろかれた方も多いと思います。もし調査の通りであるなら、本当に嬉しい。これまで見聞きしてきたあらゆるテレビや新聞の情報も、そして現地から届いた手紙の中の訴えに対しても「ただのストレス」ですよ、心配しないで汚染地帯に住みなさい、取り越し苦労でしたねと現地に伝えて、しんどかったこの救援活動もオシマイにできます。

しかし、これまでの沢山の人々の証言、調査、そして原子力にまつわる歴史を考えるととてもひどい内容と言わねばなりません。調査結果について云々する前にこのIAEAがどのような組織なのか述べてみたいと思います。

上に囲みで示した文章は、昨年「朝日ジャーナル」の5月11日号で前IAEA広報部長でWHO広報部顧問吉田靖彦氏によって書かれた文章の冒頭部分です。IAEAの性格を知る上で大変参考になりますのでその内容を紹介します。

## 日本の電力会社が手弁当で支援

それによると「アメリカ人のダークス事務局長は、米原子力産業会議副議長からIAEA入りし、ローゼン原子力安全部長も、ゼネラル・エレクトリック（GE）社のエンジニアとして韓国の原発導入を手がけた。昨春引退したソ連人のコンスタンチノフ事務局長は、チェルノブイリ原発の設計技術者、といった具合だ。さらに、各国の政府・業界が給料持ちで派遣している”手弁当”のスタッフが組織を支えている。米国から約100人、日本も科学技術庁、通産省のほか、東京電力、三菱金属などから約20人が”国連職員”として働いているので

ある。」という。

また、「グリーンピースという国際環境保護団体がある。環境保全の立場から反核・省エネ・反原発を訴えている国連経済社会理事会公認の国際NGO（非政府機関）だが、再三のオブザーバー派遣申請にもかかわらず、今日までIAEAからは”不具戴天の敵”として門前払いを食わされている。IAEAには約20団体のNGOが公認され毎年総会にオブザーバーを派遣しているが、顔ぶれはすべて各国の原子力産業、原発推進機関、原子力学会の代表で、いささかなりとも反原発を唱える者は異分子と見なされ、排除されている。」として、吉田氏は、「世界の原子力産業との”癒着”もかなりの程度、事実である。この限りでは、反原発の著作で知られる広瀬隆氏がIAEAを『核産業の代理人グループが動かしている組織』と断じているのは、的外れではない。」と述べています。

「国際」という言葉に弱い日本人は、その権威に圧倒されがちですが、実状は我々の思うほど簡単ではないようです。特に経済大国となった日本は、国連機関のあらゆるところで人的にも進出しており、このIAEAの事務局次長に今年の5月日本人が初めて就任しました。またIAEAの今度の調査委員会のリーダーも日本人でした。またWHO（国際保健機関）のトップも日本人だということをつけ加えておきます。

## 調査から外された

### 除染作業者と高汚染地域移住者

さて、ではあの調査はどのような問題があったのでしょうか。今年6月20日付けの「反原発新聞」で高木仁三郎さんは、今度の調査について「まず、60万人とも70万人とも伝えられる事故後の除染作業者が調査から除外されています。30キロゾーン内の汚染地域も、そこからの移住者も調査対象から外されている。ホットスポット地域が除外されていることなど、多分に意図的なものを感じます。調査の方法もきちんと示されていない。影響が確認できないというのは、調査の貧弱さの結果であって、それをもってソ連政府のお粗末な対応にお墨付きを与えるなんて、あまりに政治的な調査報告と言えますね。」「（健康への影響について）病院などのデータの検討と独自の調査結果による結論だというのですが、はじめに言ったような（調査方法の）問題がある上にきわめて不十分な調査ですからね。調査対象者の選び方も比べている対照者の選び方も不明です。おまけに自分から健康調査してほしいと言ってきた人については『偏りがあるといけなから』として調査しなかったというのです。」

そして（高木さんは、今回の調査報告を検討するにあたり改めてガン死の見積を出し）「ソ連国内だけで10万から20万人にならざるをえない。統計的に有意なほどガンの発生率を増加させない、なんてとても言えない」と述べています。

次に現地の人々の言葉を紹介してとりあえずこの問題を終わりにします。

— ただ非公式にですが、私は医者にこう言われました。 — 主な原因は、チェルノブイリでこのような病気にかかった人が急激に増えました、と。

(チェルノブイリからの手紙から)

— 患者の数は、3倍にも増えました。1985年チェルノブイリ事故の前ですべての血液病あわせて115人でしたが、今年1989年10月までにすでに309人にのぼりました。(山里真氏が白ロシアから持ち帰られたテレビ番組(既に放送禁止になっている)のビデオの中から医師の言葉)

— 現在(ロシア、白ロシア、ウクライナの) 3地域に住んでいる子供も大人も白血病に侵されて死んでいます。この春遺伝学博士のデータによりますと、我々の住むジトミール州で昨年の出産の半分は、異常出産でした。

(ネチポレンコ編集長のメッセージから)

— (獣医のクージン・ペトロ・イバーノビッチは、)「障害を持って生まれてくる家畜の数は、どんどん増えているんだよ。これは非常に警戒を要する兆候だ」

「その兆候がどうしてチェルノブイリの影響だと分かるのですか」と私は聞いた」

「私は1983年からここで獣医として働いているが、チェルノブイリ事故まではこうしたことはほとんどなかったね。」

(広河隆一著「チェルノブイリ報告」岩波新書より)

— 看護婦が答えた。「ガンが増えています。以前は皮膚ガン、喉頭ガン、舌ガンはありませんでしたが、それは今では認められるようになったのです。」

医者が引き継ぐ。「87年には喉頭ガンと口内ガンが6例記録されています。86年には1例だけ。85年にはまったく認められませんでした。子供たちのことが心配です。特に甲状腺が肥大してガンにならないように注意しなければなりません。」

( // ) 他証言多数。

尚、これまでにチェルノブイリ救援・中部へ届いた現地の家族からの大量の手紙や絵を本として出版する準備を進めています。手紙集は、統計的にも重要な価値を持っています。ご期待ください。



## 子どもたちに届いたビスケット

昨年末大量のクリスマスカードとともにビスケットや粉ミルクを送りました。以前にもファックスで送り先のリストが届いたことはお知らせしましたがこの程現地新聞社から詳細な届け先のリストとともに写真を送って来ましたのでご紹介します。手紙によるとウクライナ共和国内の各地を1500キロも走って配ったそうです。



## 医療救援キャンペーンのこと

～すでに2000万円相当の医療機器準備～

チェルノブイリ救援・中部では、これまでに皆さんから寄せられた救援金をもとに超音波診断機2台と血液分析機3台を購入し、さらに他2台の超音波診断機(中古)を寄付いただいています。超音波診断機は、甲状腺の診断に欠かせません。また血液分析機もごく少量の血液を採取するだけで瞬時に成分表示される機械で、何度も分析のため血液を採取され苦しんでいた現地の子どもたちにとっても医師らにとっても大きな助けになります。これだけ高性能の機械は、どちらもウクライナ共和国ではこれまでないと言われており、金額にしてもかなり少なめに見積もっても2000万円相当になります。これらの機械は、夏にネチポレンコ編集長が帰国する際に直接持っていってもらうことにしています。

救援・中部では、冒頭でもお知らせしました通り来日中の期間を医療救援キャンペーンとして新たに皆さんからの医療機器(中古可)などの寄付を募っています。お知り合いにお医者さんがいらっしゃいましたらどうぞご紹介ください。

\*\*\*\*\*

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

代表:坂東弘美 問合せ先:岡部(昼のみ)豊橋市東新町334 TEL.0532-52-2380 長谷川(夜のみ)名古屋市名東区赤松台502 TEL.052-773-0271 山盛 名古屋市緑区作の山町メゾン作の山207 TEL.052-892-9706

\*\*\*\*\*

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意下さい。

～海外記事とじこみ帳から～ (要約のみ)

## ダイアナ妃、チェルノブイリの

### 子供たちを見舞う

イギリスでダイアナ妃が、西ロンドンのハマスミス病院を訪れ、治療を受けている11人のソ連の子供たちを見舞った。ダイアナ妃は、1時間半に渡って子供たちと話を交わしたが、この内3人はチェルノブイリ原発事故の被災者である。子供たちは、必要な治療を6週間に渡って受ける。子供の治療費は、イギリスの二つの石油会社が負担することになっている。(タス通信 5/2)

## チェルノブイリの子供、

### 白血病治療のためアメリカへ到着

化学的治療を受けるためチェルノブイリ原発事故被災者のウラジミール・シマノヴィッチ君10才が、チェルノブイリの人道的救済組織の招きでゴメリからアメリカのケネディ国際空港に到着した。

シマノヴィッチ君は、3ヶ月に渡ってアイオワのメソジスト治療センターで治療を受けることになっている。救済組織のマクドローウエルによると彼は2人目の子供で最初の少女は、骨髄移植による治療が現在行われているという。

しかしながら彼らは、はるかに幸運な方で、組織が助けたい子供たちはさらに8千人おり、その子供たちはガンなどの重病であるという。(UPI 6/18)

\*\*\*声・声・声\*\*\*

(救援金を下さった愛知県豊川市千両小学校4年生の皆さんからの手紙です。)

・・・クラスの子がチェルノブイリの事故の写真をもってきました。・・・  
私たちは大ショックでした。またみんなで話し合いました。

1. 毎日一円募金 2. アルミ缶集め 3. ざっし集め 4. 新聞集め を  
することにしました。毎日みんなどれかで協力しました。お父さんたちも会社であき缶を集めてもってきてくれました。おばあさんもお母さんもみんな協力してくれました。集まると学校のリヤカーに積んで伊藤商事さんにもっていきました。・・・集めてお金にすることはなかなかたいへんでした。働くことのきびしさもお金の大切さもみんなよくわかりました。こうして一年間毎日毎日活動してやっとためたお金です。ほんの少しですが、わたしたちは心をこめました。力いっぱいのお金です。お役に立てて下さい。わたしたちはほんとうにがんばってよかったとみんな顔を心を輝かしました。

チェルノブイリの子どもたちが少しでも幸せになるよう祈っております。  
よろしく願います。